

平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・松前町)

実施報告書 (概要版)

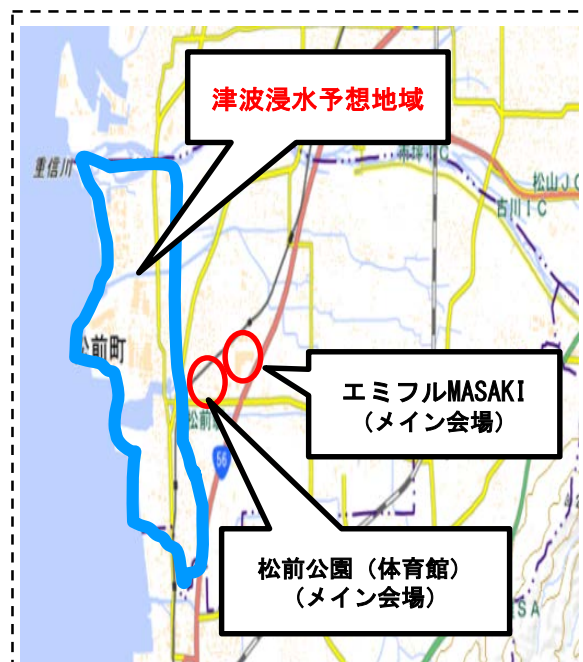
愛媛県松前町について

松前町は、石鎚山系に端を発した一級河川重信川を境にして県都松山市に隣接し、道後平野の西南部にあります。

西は伊予灘に面し、南は伊予市をへだて四国山脈が望め、豊かな自然と土地に恵まれたところです。

安政4年の地震においても、津波被害を受けず、過去、津波を含め大きな災害には見舞われていません。

松前町では、東日本大震災の教訓を踏まえ、南海トラフ巨大地震の津波に関し、愛媛県が平成25年6月に公表した被害想定調査結果をもとに、松前町総合防災マップ（津波編）を作成しました。このマップは、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラスの津波」での町内の浸水深や津波が到達する時系列のシミュレーションを示し、『避難を基本』とした減災に活用できるものです。



出典：松前町ホームページ、松前町誌

訓練概要

- 訓練想定：11月7日（水）午前9時15分、南海トラフ巨大地震が発生し、関東から西日本各地で大きな揺れを確認した。地震の規模は、マグニチュード9.1で、愛媛県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された。松前町では、最大震度7を観測したため、直ちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し津波からの避難を呼び掛けた。津波浸水想定区域については、松前町総合防災マップ（津波編）のとおりとする。
- 実施日時：平成30年11月7日（月）09:15～12:00
- 主催：内閣府、松前町
- 参加者数：約470名
- 参加機関：自主防災組織、保育所、老人会、小・中学校、消防団陸上自衛隊、河川国道事務所、愛媛県消防防災航空隊消防、警察、(株)フジ（エミフルMASAKI）等

訓練の評価

本訓練は、民間の大型商業施設であるエミフルMASAKIと連携した初めての訓練であり、当日は、天候にも恵まれ地域住民、町職員及び防災関係機関等、約470名が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練課目には、老人会を対象とした「避難後の健康管理講座」や東日本大震災経験者語り部による「防災講演会（早めの避難にまさる防災なし）」等を含めて実施し多大の成果を得た。この結果、「この種訓練は、反復実施が大切で地域の若者を含め参加者を広げたい。」等の有意義な意見が出された。

- 「松前町総合防災マップ（津波編）」に示す浸水想定地域に住む住民（松前校区自主防災会、松前幼稚園、松前小等）以外は、津波被害に関する認識が薄い。
- 訓練への避難行動要支援者の参加が見られず、また、参加された自主防災会や老人会の方に加えて、一般の若い人達(家族)の地震・津波避難訓練への重要性の認識及び訓練への参加が必要である。

当日の訓練内容

09:15～09:20 情報伝達訓練、シェイクアウト訓練

松前町全域を対象に、Jアラートの自動機能及び防災行政無線による情報伝達訓練と自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置いたシェイクアウト訓練を行った。大型商業施設のエミフルMASAKIと連携した訓練を初めて実施した。

▼松前幼稚園



▼松前小学校



▼エミフルMASAKI



09:20～10:10 津波避難訓練、ヘリによる救助訓練

津波浸水想定区域の松前校区自主防災会の住民については、指定避難所の松前町体育館に、エミフルMASAKIの買物客（岡田・北伊予校区自主防災会、松前校区老人会、松前ひまわり・黒田保育所）は、従業員の避難・誘導に基づき、エミフルMASAKI西側立体駐車場に避難した。

▼松前小の屋上避難



▼松前町体育館への避難



▼エミフルMASAKI西側立体駐車場への避難



10:10～11:10 応急救護・煙体験・初期消火訓練等、避難後の健康管理講座

松前公園多目的広場では、各ブースに分かれて消防の指導により、応急救護訓練、煙体験訓練、初期消火訓練及び起震車体験訓練について体験型訓練を実施し、松前公園体育館では、松前校区老人会を対象として、町職員により避難後の健康管理講座を実施した。

▼応急救護訓練



▼初期消火訓練



▼避難後の健康管理講座



11:10～11:55 防災講演会、炊き出し訓練 (09:15～終了)

東日本大震災語り部の、いとおか津波語り継ぐ会会長の仲條氏により、「早めの避難にまさる防災なし」という演題で防災講演会を実施した。また、自衛隊による炊出し（カレー）及び松前校区自主防災会による配食の炊出し訓練を実施した。

▼防災講演会講師仲城富夫氏



▼町長講評

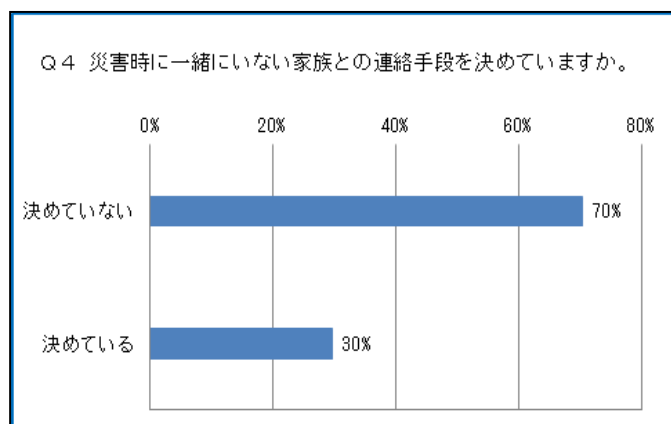
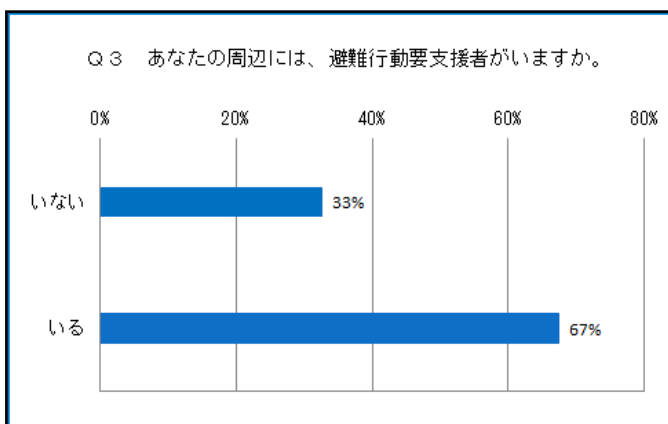
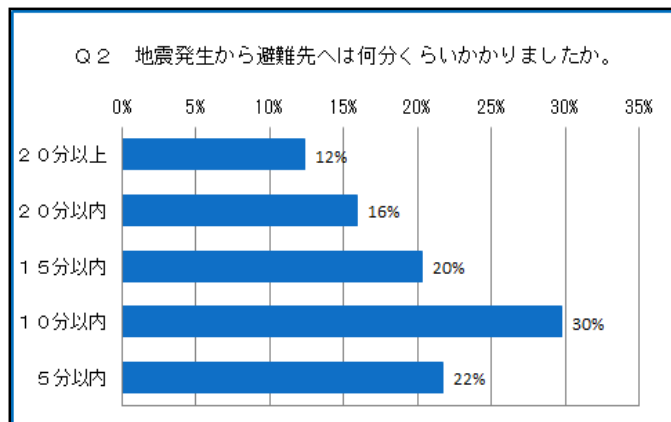
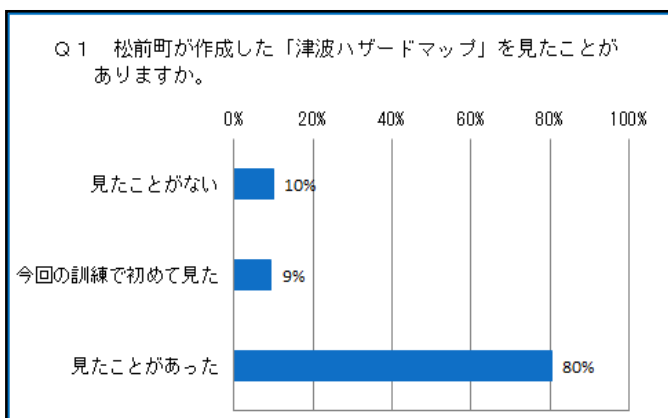


▼炊出し訓練



アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：138人)



【自由意見】

- ・避難時間が5～10分となるよう、避難所の数を現在の10箇所から30箇所程度に拡充が必要
- ・訓練に参加し防災教育の重要性を認識したが役場職員への防災教育も必要
- ・色々経験でき良かったが、防災行政無線が聞こえにくかった。
- ・エミフルMASAKIと連携して実施した訓練は意義深い。館内放送は外国語も必要

【反映事項】

- ・引き続き、津波避難の重要性について周知・啓発し、避難行動要支援者を含めた訓練の実施が重要
- ・町の災対本部訓練の実施・継続により町職員の災害対策業務の練成が必要
- ・エミフルMASAKIと連携した訓練は、町としての災害対策活動充実に資する。

